

平成29年度 県立総和工業高等学校自己評価表

No. 1

目指す 学校像	教育活動全体を通して、人間性の涵養と生きる力を身に付けさせ、心身ともに健康で豊かな人間性を備えた生徒の育成を図り、ものづくり教育を基軸とした教育活動を通して、社会の形成者として必要な資質・能力の育成を期す。		
昨年度の成果と課題	重 点 項 目	重 点 目 標	達成状況
- ものづくり教育を中心とした教育を展開し、小中学校との連携を保ちながら、徐々に地域貢献ができてきた。 - 基礎学力が乏しく授業に対する意欲が低い生徒がいる。授業規律の確立を図ると共に授業改善に努め、分かりやすい授業を展開していく必要がある。 - 挨拶のできる明るい生徒が多いが、規範意識の低い生徒や基本的生活習慣が身につけていない生徒がみられる。交通事故件数は、平成28年度11件と一昨年から低い数値を維持している。交通安全教育と共に交通マナーの改善を進めていく必要がある。 - 平成28年度の就職希望者は108名で内定率は100%であった。進学希望者は26名で全員が進学した（うち大学進学者は11名）。引き続きキャリア教育を充実させ、進路意識の育成を図りたい。進路決定立100%を継続する。 - 多くの生徒が積極的に資格・検定試験に取り組んでいる、今後はより上位の資格・検定試験に挑戦させたい。 - 全国大会に出場する部活動がある反面、興味を示さない生徒も多く、部活動加入率が50%程度に留まっている。加入率を高め部活動の活性化が必要である。	学習意欲を高める授業・実習の工夫改善	①授業規律の確立と基礎的・基本的な内容を重視し、確かな学力の定着を図る。 ②観点別評価を活かした学習活動に努め、授業・実習の工夫改善を図る。 ③ものづくり教育を推進させ、専門的な知識や技術の習得と、資格取得につなげる。	B
	道徳教育の推進と基本的生活習慣の確立	④規範意識の高揚を図り、基本的生活習慣を身につけさせる。 ⑤道徳教育やいじめ防止対策推進体制を確立し問題行動等の未然防止に努める。 ⑥ルールやマナーの向上を図り交通事故防止に努める。	C
	健康や体力を育み学校全体の活性化	⑦部活動やホームルーム活動等を充実させ、生徒の主体性を育む。 ⑧学校行事等を通して、生徒の自主性・自律心を育成し、学校全体の活性化を図る。 ⑨特別活動の充実を図り、体験的活動を通して自発的・自治的な態度の育成に努める。	B
	社会の変化に対応した生きる力の育成	⑩キャリア教育を推進し、勤労観・職業観の育成を図り、進路希望の実現を目指す。 ⑪企業体験学習や進学支援を充実させ、主体的に進路選択ができるようにする。 ⑫校内環境の美化に努め、よりよい生活環境の創造のための実践的な態度を育成する。	A
	P T A活動の活性化と地域社会との連携	⑬P T A活動の活性化のため、保護者との連携と行事の工夫改善を推進する。 ⑭地域イベントやボランティア等に積極的に参加し、本校の特色をアピールする。 ⑮防災力推進の観点から、ものづくりを活かし地域社会との連携を推進する。	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題		
教務部	授業時間の確保と確かな学力の定着を図る。	授業交換を積極的に行い、授業実施時間の量的確保の啓発や授業時間遵守を推進する。	①	A	B	・授業交換等を積極的に行い授業時間の確保を行う。 ・授業改善を積極的に行う手段を講じる。 ・学校PRの充実を図る。 ・ボトムアップによる校務分掌の充実を図る。
		定期考査の適正な運営を図る。	①②④	A		
		シラバスの内容に従い観点別評価を生かし、充実した授業となるよう工夫改善を図る。	①②	B		
		生徒が主体的に学べる環境を積極的に構築する。	②③⑩⑭	B		
	本校PR活動の活性化を図る。	学校全体で実習公開・学校開放・体験教室等の事業に取り組み充実を図る。	⑧⑭	A		
		学校案内、説明資料等の改善を図り学校PRに努める。	⑭	A		
	学習習慣の確立と基礎学力の向上を図る。	学力向上推進総合事業の中心的役割を果たすため企画立案を積極的に行う。	③⑩⑪⑭	B		
		定期考査や基礎学力テスト等の全段で学習を推進する機会を積極的に取り入れる。	①	B		
	保護者の協力も得るために、定期考査等の実施について周知する。	④	A			
	円滑な教育活動の推進を図る。	各校務分掌や学年、教科、委員会との連携を深め、学校行事が円滑に実施されるよう努める。	⑧	B		
管情理部報	ホームページの充実を図る。	学校ホームページの内容を常に最新状態とし、ホームページによる情報発信を行う。	⑭	A	B	・ホームページの充実 ・ネットワークセキュリティの確保
	学習のICT化を推進する。	情報ツールを活用し、わかりやすい学習活動のサポートを行う。	①	B		
		学力向上事業と連携して、使いやすいICT環境を構築する。	①	B		
	新聞紙面の活用を図る。	学校特色を投げ込み記事等を利用して、広報活動を行う。	⑮	B		
進路指導部	進路意識の向上を図る。	定期的に進路ガイダンスを導入し希望進路の実現を促す。	⑪	C	B	・進路に関する行事について運営主体の明確化を図り、円滑な実施を目指す。 ・高大連携と出前授業の充実を図る。 ・進路だより発行し、進路情報の発信に努める。
		タイムリーに昨年までのキャリアプランノートの一部を発行する。	⑪	D		
		各種適性検査を導入し、客観的に自己を認識させ進路選択に役立たせる。	①⑪	B		
		「高大連携事業」の出前授業やオープンキャンパスへの参加を促し進学を実現させる。	①⑪⑭	A		
		工場見学、インターンシップにて職業観・勤労観を育成する。	①⑪⑭	B		
		進路達成の充実を図る。	情報の提供に努める。閲覧室を有効的に活用する。	⑪⑫		
	面接指導の充実を図る。		⑪	B		
	書類作成についての留意点を周知徹底する。		⑪	B		
	希望進学先・希望就職先についての研究を徹底させる。		①⑪	B		
	生徒指導部	学生生活の根本である「授業規律」を確立することにより、自己の規範意識、基本的生活習慣や社会のルールを見直すことができる生徒を育成する。	朝の立哨指導、昼休みの校内巡視および毎月の頭髪服装検査等を、全職員共通理解のもとで実施するとともに、問題行動の早期発見・早期対応と未然防止に努める。	④⑤⑥		
道徳の授業や進路指導部との連携行事により、道徳的な態度や考え方を育み、常に進路実現を意識した活動や社会の一員として自覚のある心身を育成する。			④⑤⑩	D		
各学期毎のマナーアップ週間、毎週水曜日、生徒会によるあいさつ運動、マナーアップキャンペーン参加等をとおして、モラルやマナーの向上に努める。			④	C		
毎月の生徒情報交換会をとおして、生徒に関する情報を共有し、保護者との密な連携を取りながら、いじめ問題、問題行動等の未然防止に努める。			⑤⑥	B		
携帯電話やインターネットの安全利用について、生徒、保護者の意識を高めるための講演会や安全教育を推進する。			④⑤	D		
交通安全教育の充実とともに、交通マナーの向上、交通事故の未然防止を図る。			交通安全教室を各学年毎に実施し、交通ルールの遵守、マナーの向上および交通事故の減少に努める。	④⑥	C	
		各学期毎の自転車、バイク点検およびマナーアップ週間等の登下校指導により、交通安全意識の高揚を図る。	④⑥	D		
		教育相談体制の充実と職員間の連携を図る。	教育相談体制の整備や教職員の研修会を推進し、生徒の様々な悩みを受け止め、指導できる体制を確立する。また、発達障害等に関する職員研修を実施する。	④⑤	C	

特別活動部	生徒会活動・学校行事等の活性化を図る。	生徒会役員が中心となり、各クラス・各専門委員会と連携をとりながら、より良い学校生活をおくられるように工夫・改善をし、学校行事等を実施する。	⑧⑨	B	B	・次年度開催の文化祭に向けて、各クラスの文化祭実行委員と生徒会を中心として、早期に計画を立案する。
	部活動の活性化を図る。	積極的に部活動紹介を行い、各部活動の取り組み等の強化を図り、企業のニーズに答えられるように指導をし、部活動加入率の向上に努める。	⑦⑧	B		
	各生徒会専門委員会の活動の向上を図る。	各専門委員会の年間活動を検討し、生徒会とも連携をとりながら活動を充実するように努める。	⑨⑫	C		
	体験学習・ボランティア活動の推進を図る。	生徒会が中心となり、魅力ある学校作りやボランティア活動ができるように、生徒の意識の向上に努め、活動を充実するように努める。	⑨⑭	B		
	HR活動の向上を図る。	より良いHR活動ができるように年間計画を立て、活動を充実するように努める。	④⑥⑦	B		
聴図書部視	図書室の整備、図書室活用の活性化を図る。	図書室利用の円滑化並びに図書委員会活動の活性化を図る。	⑦⑧	B	B	・図書館だよりや年間の計画を改善し、利用者や本の貸出数を増やす。
	視聴覚環境の改善を図る。	「図書だより」の刊行により図書委員の質の向上を図る。	①⑧	B		
		視聴覚室利用の円滑化管理、運用を図る。	⑦⑧	B		
		什器を更新し、視聴覚室の利用環境の向上を図る。	⑧⑫	B		
保健厚生部	心身の健康指導に努め、規則正しい生活習慣の向上を図る。	健康診断を通して、生徒の健康管理に努める。	④	B	B	・清掃区域の分担を見直し、校舎内をきれいにする。
		感染症の予防に努めながら、生徒の基本的生活習慣を促す。	④	B		
	学習施設環境の向上を図る。	学校敷地内の整備と清掃・美化に努めながら生徒が日々の生活の中で公共心を養うように努める。	⑫	C		
		エアコン、扇風機、ストーブなどの安全使用管理に努める。	⑫	B		
渉外部	防災教育と奉仕活動の充実を図る。	防災避難訓練を通し、防災意識を高め、清掃作業においては校内環境の美化に努め、よりよい生活環境をつくる。	⑫⑮	B	B	・PTA総会の参加率向上
	PTA行事の参加率向上を図る。	PTA総会、支部別PTA等の内容検討。参加教員の意識向上を図る。	⑬	B		
	PTA研修会を充実させる。	各支部の協力の下、早めに具体的な実施内容を決定する。	⑬	B		
第1学年	ホームページの活用を図る。	保護者への連絡を徹底するための情報伝達システムの構築を検討する。	⑬	B	B	・日々の授業に落ち着いて前向きに取り組ませ、将来必要な学力を身につけさせる。 ・進路についての意識向上を図る。
	基本的生活習慣を確立し、社会への適応力を身につけさせる。	保護者との連絡を密にし、身なりや出席状況について定期的に指導を行う。	④⑥	A		
		授業担当者との連携し、授業に主体的に参加する態度を育成する。	①	A		
		学校行事や道徳の授業等を通して、挨拶の励行、人や社会との関わりについての考察など、在り方生き方の自覚を深めさせる。	⑤	B		
	将来を見ずえて、計画的で意欲的な生活を送らせる。	HRや学年集会を通して、部活動加入や資格取得への取り組みを促す。	⑦⑧	B		
		学習時間を確保し、基礎学力の向上を図る。	①	B		
第2学年	進路指導部と連携して行事を行うことで、早期から進路意識の向上を図る。	進路指導部と連携して行事を行うことで、早期から進路意識の向上を図る。	⑩	B	C	・生徒一人一人の進路実現に向けて、教科担当者との連携を充実させる。 ・携帯電話の利用についてのマナーアップを図りながら、卒業後の社会人としてのマナーを身につけさせる。
	基本的生活習慣の確立を図る。	服装頭髪検査を月1回実施し、家庭と連携しながらマナーアップに努める。	④⑥	B		
		携帯電話に関するモラルの向上を図る。	④	D		
	成績不振者に対する指導を充実させる。	情報交換の場を多く設け、学年・教科・家庭での共通理解に努める。	①⑬	B		
	進路意識の向上を図る。	課題や補講により次学期への持ち越しがないようにする。	①②	C		
第3学年		進路指導部との連携を密にして、講演会や適性検査の充実を図る。	⑩⑪	C	B	・全体的には落ち着いた学校生活を送り、進路決定に関しても概ね良好といえる。 ・時機を見た適切な指導や一人一人に対するきめ細かな指導の改善を図る。
		3年生の進路状況に興味を持たせ、次年度の自分に重ね合わせるよう指導。	⑩⑪	C		
	交通安全指導を徹底する。	生徒指導部と連携をして交通安全指導を充実させる。	④⑥	B		
	進路指導の充実を図る。	自己の進路目標を早期決定できるようにアドバイスする。	⑩⑪	B		
		進路集会や各種適性検査を有効活用し、併せて面接指導の充実を図る。	⑩⑪	B		
	資格取得を奨励する。	補習等を実施して合格率の向上に努める。	③⑪	A		
		自己の適性を見極めさせることで、資格取得の重要性に気づかせ、資格取得者数の向上を図る。	③	B		
第3学年	基礎学力の向上に努める。	進路目標に向け、自ら学習に取り組む姿勢を育てる。	②③	B	B	
		ホームルームを有効に活用し、社会人として必要な基礎学力の向上を図る。	①	B		
	人間性の育成を図る。	規範意識の高揚を図り、社会人となる自覚・責任を持たせる指導の充実を図る。	④⑥	B		
		学校行事や校外活動への積極的参加を促す。	⑧⑨⑭	B		

械 科	基礎・基本の徹底。特に技術力の向上を目指す。	「実習」を通して、基礎・基本をしっかり身につけさせる。また、ものづくりの面白さを体験させ、企業が必要とする工業についての確かな技術を有する人材を育成する。	①③⑩	A	B	- 提出物等の期日内提出指導の実施 - 検定試験の合格率を向上させる指導の充実
	勤労観・職業観の育成を図る。	企業の求める人材を育成するため、インターンシップに参加させる。	⑩⑪	C		
		「課題研究」を通して、学習への成就感・達成感を体得させる。また、発表会を行いプレゼンテーション能力の向上を図る。	②③⑧	A		
	資格取得指導の充実を図る。	補習の実施、指導法を工夫して合格率向上を図る。	①②③	C		
		資格取得を積極的に推進し、生徒の進路実現に向けた支援を行う。	⑩⑪	B		
	地域との連携を強化する。	地域イベントに積極的に参加し、本校をPRするとともに参加生徒の積極性や社会性を育成する。	②⑭	B		
電 子 機 械		出前授業を計画し、地域との連携を図る。	⑨⑭	C		
	安全教育の徹底を図る。	実習をとおして、3S（整理、整頓、躰）を自覚させる。	④⑫	B	B	最新の技術革新（Iot）に対応できるような教育課程について検討をする。
	ものづくり教育の充実を図る。	実習内容（計測実習、製作実習、パソコン実習、溶接実習）の工夫改善を図る。	①②③	B		
		地元の企業と連携を図りながら企業実習を実施する。	③⑪	A		
	資格取得を推進する。	専門教科と連携を図り、各種資格試験の合格率の向上を図る。	②③	B		
		3冠資格（2種電気、旋盤3級技能検定、電子機器組立3級）取得者を顕彰し、資格取得の推進。	③⑪	A		
電 気	地域社会との連携を図る。	地域のイベントに積極的に参加し、本校のPRに努める。	⑭	B		
		交通安全グッズの製作を行い、地元の警察署と連携し地域の交通安全の意識を高揚する。	⑭	D		
	資格取得指導の充実を図る。	生徒一人一人の個性に合わせたきめ細やかな指導を行い、電気関連の資格取得指導を充実させ、合格率の向上を図る。	①②③	C	C	- 安全教育の徹底を図る。特に5S（整理・整頓・清潔・清掃・躰）を実習で自覚させる。 - 資格取得指導の検討を行い合格率のアップを図る。 - 基本的生活習慣について指導する。
	専門教科指導の充実を図る。	各専門教科を通して、「ものづくり」の楽しさを体験できるように適切な教材を作成に努める。	③	C		
		課題研究発表等での、プレゼンテーション能力を高めさせるよう指導に努める。	③	C		
	地域との連携を強化する。	古河市主催で実施されている関東ド・マナ祭や青少年のための科学の祭典に積極的に参加し、「ものづくり」を通して地域に工業高校をPRする。	⑭	C		
国 語	基本的生活習慣の確立を図る。	実習においての少人数授業を活用し、生徒との関わりを通して、実社会において必要なルールやマナーなどの指導をする。	④	C	B	より生徒の実態に即した授業展開ができるように、各教材における指導の目標を精選する。
	読む力をつける。	音読を行う。	①	B		
		文章から必要な情報を抽出し、正しく理解するように読み取る。	①	B		
		各ジャンルの作品の特長を正しく理解し、必要に応じた読解力を養う。	①	B		
		語彙を増やすために、積極的に意味調べを行う。	①	B		
	書く力をつける。	読みやすい字を書くように努め、必要な情報を正しくノートに執る。	①	B		
地 歴 ・ 公 民		漢字語彙力を増やす。	①	B		
	話す力をつける。	正しい言葉遣いで発表する。	①	B		
		必要に応じて相談、質問が適宜出来るように努める。	①②	B		
	基本的な事項・事柄を精選した授業を展開し、社会に関する基礎的な知識を身につけさせる。	具体的事例や時事問題をを取り上げるなど、生徒が理解しやすい授業の展開・工夫に努める。	①	B	B	生徒がより理解しやすい授業展開・教材作成に努める。
		課題やプリントを作成し、生徒が意欲的に授業に参加できる環境を整えるとともに、提出させることで学習達成状況の確認に努める。	①②	B		
		成績不振者に対する、補習授業や課題学習に積極的に取り組む。	①②	B		
数 学	社会的事象及び歴史的事象に対する関心を高める。	作業的学習を積極的に取り入れる。	①②	B		
		視聴覚教材の積極的な活用を図る。	①	B		
	基礎計算力を高める。	計算過程の復習を繰り返し、基礎計算の定着を図る。	①	B	B	基礎計算力を身に付けさせる。
		課外授業や補習授業を行い、個別指導の充実を図る。	①②	B		
	数学的思考力を養う。	プリントによる問題演習や小テストを実施し、生徒が自ら取り組める環境を充実させる。	①②	B		
		生徒が数学検定を受けられる環境を作り、生徒の学習活動を促す。	②③	B		

理 科	理科への興味関心を高める。	身近な話題や工業科目との関連を意識した題材を取り上げ、理科への興味・関心を高める。	①	B	B	・実験や観察の場面を増やし、科学的に考える力や知識を活用する力を身に付けさせる。
	学習に向かう姿勢を育成し、基礎的学力、基本的な知識の確実な定着を図る。	授業態度や課題提出の指導を強化し、授業に臨む意識や態度の向上を図る。	①②	C		
		「科学と人間生活」においては、科学的な一般常識の修得に重きをおいた授業を展開する。	①	B		
		小・中学校レベルの内容に戻りながら、基本的な法則や公式の確実な修得に重きをおいた授業を展開する。	①	B		
	科学的思考力を養成する。	実験・観察や問題演習を通して、科学的に考える力や知識を活用する力を養わせる。	①	C		
	生徒の能力に応じた指導を行う。	成績不振の生徒には補習を定期的に行う。	②	B		
保 健 体 育		工業科と連携し、工業系資格の合格者数の増加を目指す。	③	B	B	・来年度は、体力推進プランを確実に実行し、体力テストの結果の向上を図る。
	服装指導を徹底する。	授業開始時、服装の乱れを指摘しチェックを行い、規範意識の高揚を図る。	④	B		
	運動技能と体力の向上を図る。	自己の能力に応じた運動の課題に対し、適切な指導・アドバイスを行う	②	B		
		各種競技に関連する運動を積極的に授業に取り入れ、生徒の体力レベルを県平均まで引き上げる。	①②	C		
	あいさつ指導を徹底する。	教員側から正しいあいさつを示し、あいさつ指導の充実を図る。	④	A		
		始業時、終業時の整列を徹底する。	①④	C		
書 道	自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。	的確な思考・判断に基づいて適切な意志決定を行い行動選択ができるよう、保健の授業を通じさまざまな知識や情報を伝達し、理解を深めさせる。	①	B	B	・生涯にわたり書道に親しむことができるための、基本的指導を充実する。
	書の基本技術及び書写能力の向上を図る。	個々に応じた指導を積極的に行い、表現力や全体の構成力を養う。	①②	B		
英 語		書への関心・感性を高め、書の伝統と文化についての理解を深める。	①②	B	B	・生徒の実態に応じた授業展開を目指すと共に、副教材を効果的に利用する。
	基礎学力の向上を図る。	課外授業や補習授業を行い、個に応じた指導に努める。	①②	B		
		基礎的・基本的な文法事項を丁寧に説明し、確かな学力の定着を図る。	①	A		
	授業内容の定着を図る。	プリント学習を通して問題演習を行い、授業における内容理解の定着に努める。	①	B		
		視聴覚教材を利用し、授業内容に対する興味・関心を高める。	①	B		
	英語活用能力を養う。	生徒が四技能を活用する場面を出来るだけ多く設定し、総合的な英語運用能力を養う。	①②	C		
家 庭		リスニング英語検定・英語検定希望者に対し、課外を行い、合格率の向上を図る。	①③	B	B	・1学年において簡単な実習を取り入れ、興味・関心を引き出す授業を取り入れる。
	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術の習得を図る。	ライフステージに沿った基礎的・基本的な知識と技術が身につくよう指導する。	①	B		
		被服実習・調理実習について基礎から指導し、技術の定着を図り、青年期の自立と共生という視点から、実習を通して基本的・社会的生活習慣が身につくよう指導する。	①②	B		
	自己管理能力の向上を図る。	食育の観点から、高校生として望ましい食生活を考えさせる。	①④	B		
	わかりやすい授業の工夫に努める。	簡単な実験や作業を取り入れて、興味を引き出す。	①②	C		
		身近な話題や最近の消費者問題、食事と健康の関連性などを取り上げ、生徒が関心を持つ教材を工夫する。	①②	B		

※評価基準 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない